

学童疎開そして、卒業

昭和23年卒梅組 山崎吉男

昭和16年(1941年)、太平洋戦争が勃発、当時は大井第一国民小学校でした。

昭和20年5月25日、焼夷弾が校舎を直撃し3名の先生が亡くなったことを忘れないで下さい。

私は昭和10年(1935年)に大井4丁目(旧大井倉田町)に生まれ、現在、大井7丁目(旧大井庚塚町)に生活しており87歳になりますが、この大井町から一度も離れたことはありません。

小学4年生の時、太平洋戦争が激しくなり地方に親戚が有る同期の人は縁故疎開をし、親戚が無い人は学童疎開で、大井第一は現在の中央線日野のお寺で、男子は宝泉寺(20~30名だと思えます。平成5年4月、住職にお会いして当時の懐かしい話をしました)、女子は同じ日野の大昌寺でした。また、八王子の龍光寺には、昭和7年生まれの男子約50名が学童疎開しました(昭和20年8月1日、龍光寺は焼夷弾が直撃し焼失しましたが、学童は全員無事だったそうです)。龍光寺では私の姉が寮母として学童の世話をしておりました。当時は食料が少なく、サツマイモにお米が入っているようなご飯でいつも空腹状態でした。また、空襲警報が鳴ると夜中でも山の洞窟の防空壕に避難したものです(夜中なもので田圃に落ちることもありました)。東京の空が真っ赤に見える時もありました。

全員でお寺に寝泊まりします。ノミ・シラミに悩まされ、中にはオネショしてそのまま畳むので匂いが大変でした。その最中に、母が面会に持って来てくれたオハギ(全員が食べられる程は持ってこられず)を裏の山でそっと食べ、とても美味しかったことをしっかり覚えています。私達の寮母は大森さんという方でした。

空腹、両親と離れた淋しさに耐え切れず、友達3人、大井町へ帰ろうと日野のホームに行きましたが、その時、担任の関口先生がみえ、「今、大井町周辺は焼野原、帰っても道も分からず皆に迷惑をかけてはいけない、すぐにお寺へ帰りなさい。」と大変怒られました。大変恥ずかしいことでしたが、まだ10歳くらいの時で淋しかったのです。

また、立川に軍の施設がありB29が空襲に来ると、下から高射砲で花火のような音がします。

私は体が弱く5年生の初め頃に実家に戻りました。大井町の駅に降りて、踏切の所から大森方向に帰りましたが、焼野原で道の両側は焼けた柱やトタンなどが散らばって、道なき道を通って家に帰りました。当時、線路から5~10メートルは強制疎開区域でしたが、軍需工場だったニコンは、現在の東海道線から20メートル以上あると思われたのに周辺は強制疎開されて大きな平道になっていました。そこで、戦後、大人に混じって野球などした思い出があります。家の周りは全く昔の面影がありませんでした。

家の周りには防空壕があり、我が家でも夜中に空襲警報が鳴ると駆け込んだものです。空にはB29が、昼間には5~6機で東京湾から神奈川県方向に飛んで行くのを、肉眼でも銀色の機体がはっきり見えたものです。

昭和20年8月15日に戦争が終わり5年生から学校が始まりましたが、まだ校舎もなく浜川小学校で午前午後と互い違いに勉強したものです。

昭和23年の私達の卒業式はまだ校舎もバラックで、床に板をひいてその上にムシロを広げ、当時まだPTAもなくそれぞれお母さんが割烹着姿でお祝いに煮物、赤飯など持ち寄って卒業式を終了させていただきました。松組は森先生、竹組は武井先生、梅組は桑原先生で1クラス50名ぐらいでした。卒業式の写真は浜川小校庭で二宮尊徳が写り、校舎の窓が焦げたり割れたりしていました。

当時は食料難で、母親と兄が田舎(確か埼玉)のお百姓さんと母親の着物などと米を交換して飢えをしのぎました。途中で警察官に捕まると没収されるなど、大変な食料難な時代でした。昭和23年卒業ですので、まだ校歌はありませんでした。校歌は昭和24年に、当時、岡田一郎さんが知り合いの北条誠様に作っていただいたとお聞きしております。

また、遊び道具はメンコ、ケンダマ、ベーゴマ等ほとんど屋外で遊ぶのが主流でした。

GHQのジープがくると「Give Me チョコレート、ガム」と追いかけて貰ったものでした。No More戦争です。

また、後に縁故疎開をした方々は疎開先の学校を卒業しましたが、4~5名なんとか探し出し、私達の仲間として同期会に招き大変喜ばれました。

同期会も何回か行っていましたが、5年前ぐらいからだんだんと同期の友達もいなくなり、寂しいものです。同期で元気な方がおられましたら、是非、同窓会事務局にご連絡ください。